

この目的を判断の基準にして、職員と子供たちとで話し合い、次のようにまとめました。

1 登校

- ① 登校するときは、交通のきまりを守り、通学路を歩いて登校しましょう。
- ② 朝、7時半頃から8時頃までに登校しましょう。

2 準備時間

- ① 準備時間には、次の時間の学習用具を机の上に出してから休みましょう。
- ② 外に出るときは、くつに履き替え、帽子をかぶって出ましょう。
- ③ 廊下・階段・校舎の裏・駐車場など危険な場所では遊ばないようにしましょう。
- ④ 体育館や特別教室は、使用のきまりを守り、先生がいるときに使しましょう。

3 下校

- ① 帰りの会が終わったらすぐに帰りましょう。
- ② 交通のきまりを守り、寄り道をしないで決められた通学路を歩いて帰りましょう。

4 服装・身なり

- ① 標準服を着用し、帽子をかぶって登下校しましょう。
- ② 体育服には、ネームをつけましょう。
- ③ 運動にふさわしい靴を履きましょう。
- ④ 標準服を基本にして、自分の体調や気候に応じて更衣しましょう。

5 その他

- ① 清掃用具・体育用具・机・いすなど、みんなで使う物はていねいに使い、整理整頓をきちんとしましょう。
- ② 物を大切に使い、自分の持ち物には名前をはっきり書きましょう。
- ③ 学習に必要な物以外は、学校に持って来ないようにしましょう。
(お金、遊び道具、お菓子等)
- ④ 家庭・地域で自転車に乗るときは、ヘルメットを必ずかぶり、安全に気をつけて乗りましょう。
【3年生以上(4月の交通教室後)】
- ⑤ 登下校時や帰宅後に遊びに行く場合は、安全のため防犯ブザーを携帯しましょう。

きまりを子供が決めて大丈夫ですか？

放任ではないのですか？

ある程度決めてもらった方がやりやすいのですが…

「自分で考えて判断、行動できる」という資質・能力は、大人が決めたきまりに従うだけでは育成できないと思うのです。



すべての子供たちにとっての「安心」「安全」「快適」という目的を常に意識して話し合いました。

実際、子供たちとの話し合いでこんな意見も出ました。

ともだちの呼び方についてのきまり

将来、礼儀とかマナーが必要なので「友達を『さん』や『くん』をつけて呼びましょう」というきまりは必要だと思うんだけどなあ…。



確かに。とても大切なことだね。みんなが「快適」になるよね。どうしたらいいだろうね？みんなはどう思うかな？



「運動にふさわしい靴」についてのきまり

「運動にふさわしい靴」って人それぞれ違うだろうから「運動にふさわしい靴ってこれです」って決まっていた方がいいな。



あなたの言うとおりでいい。ある程度決まっていた方が安心するというのも分かるよ。どうしたらいいだろうね？みんなはどう思うかな？



子供たちは様々な考えを発言してくれました。子供たちの発言内容はどれも正解だと思います。また、私たちが子供たちに指導する必要があることでもありました。そこで…

どっちがいいだろう？ ～子供たちに選択を～



お友達は「さん」「くん」をつけて呼びましょう。
これは鹿浦小のきまりです。

うれしい呼び方といやだなあっていう呼び方があるよね。

「さん」がなくても名前だけでもうれしいという人もいるね。

じゃあ、初めて会う人にはどうかな？

年上の人にはどうかな？



子供たちとともに考えながら、時には大切なことは指導する場面もあります。ただ、「きまりにあるから守りなさい」では子供の思考もそこで止まってしまいます。「あなたは思う？」「あなたはどうしたいの？」「こんな時はどうすればいいと思う？」と問いかけながら子供自身がよりよい生き方を考えることが大切だと考えます。

☆ 終わりに ☆

今回子供たちと一緒に考え、知恵を出し合って、きまりについて考えたことが「自分たちの学校生活を自分のこととして考えられるんだ!」、「自分で考えて判断していいんだ!」という気づきになったのではないかと考えます。

そして、今後の生活においても、子供たちが当事者意識をもって主体的に判断することができるきっかけになるような経験になったのではないかと考えます。

ただし、これが正解で、最も子供たちに適したきまりができあがったということではありません。

今後さらなる熟考が必要であり、その過程においては保護者の皆様のお考えをお伺いすることも必要になります。子供たちと学校職員と保護者の皆様とが目的を共有し、今後も知恵を出し合っていけたらと思います。

生活のきまりを見直しました

「鹿浦小の生活のきまり」について、職員間、子供たちと数回にわたって話し合いを重ねてきました。

私たちの目指す子供の姿

- 自分たちの学校生活を自分のこととして考えられる子供（当事者意識）
- 自分で考えて判断できる子供（主体的に考え、判断し、行動する）



ところが実際…

- 先生が決めたきまりをただ守られる
- 自分たちで考えて判断できることまで細かく定められている

私たちが目指す子供の姿とは逆の姿では??

「何のためにきまりがあるのだろう」
～きまりを設定する目的って?～



すべての子供たちが

「安心」

「安全」

「快適」に

過ごすために必要なもの。

「安心」「安全」「快適」の対象は、すべての子供たち。自分だけではない。

「命を守る」「自分を守る」「友達を守る」ために必要なもの